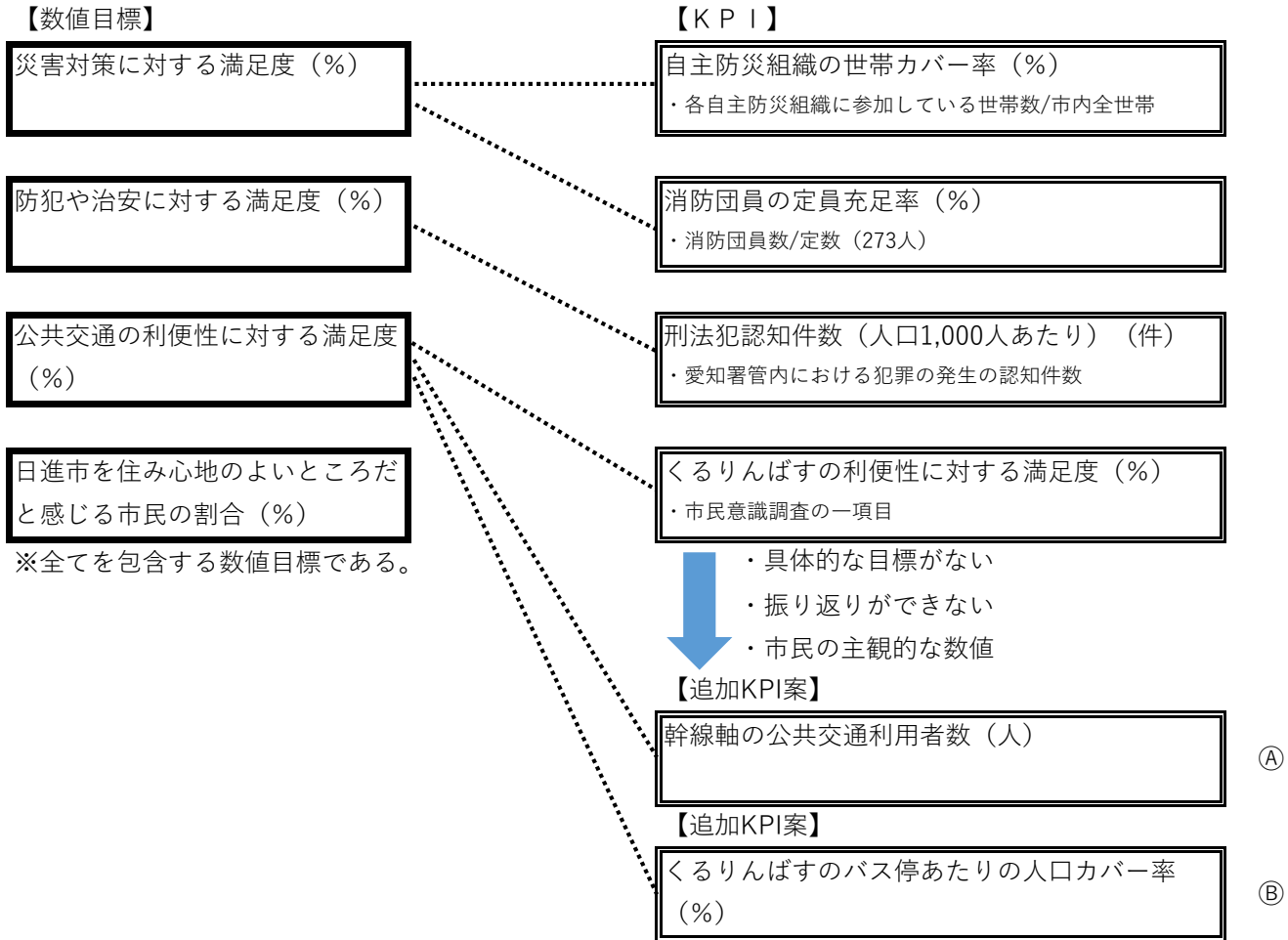


KPI修正案(基本目標4、施策4-1)

KPIが妥当であるかの判断基準

- ・具体的な事業目的に対して、進捗状況を測ることができる数値であるか。
- ・市の事業の内容や実施状況によって変動する数値であるか。
- ・指標の変動から事業の内容や実施状況を検証し、具体的に改善することができる数値であるか。
- ・指標設定後、現状に合わせて、各指標が適切に機能していることについて、検証が可能なものであるか。

基本目標4「安全・安心な暮らしが続けられ、住むなら日進といわれるまちを創る」



●追加KPIの選定理由

① 幹線軸の公共交通利用者数(人)	本市の通勤・通学流動は主に名古屋市や豊田市との結びつきが強く、これを保持することは本市の都市機能上、非常に重要である。市内外の拠点へアクセスし、都市としての発展を支える交通を確保・維持することが望ましいと考える。幹線軸の公共交通利用者数をKPIとすることで、通勤・通学に係る地域公共交通環境の向上を測ることができる。
② くるりんばすのバス停あたりの人口カバー率(%)	できる限り多くの方が公共交通を気軽に利用できる環境にすることが必要である。公共交通の中でも本市が運営するくるりんばすについては、家から近い場所にバス停があることが望ましいと考える。バス停あたりの人口数をKPIとすることで、気軽に自宅からくるりんばすに乗り乗車できる環境を把握することができる。